

腎臓内科

表 腎臓内科入院患者内訳

(単位：件)

| 入院疾患分類 | 2017年 | 2018年 |
|-----------------|-------|-------|
| 慢性腎臓病／慢性腎不全 | 71 | 80 |
| 急性腎障害 | 3 | 7 |
| ネフローゼ症候群 | 25 | 22 |
| IgA腎症／その他の糸球体疾患 | 16 | 16 |
| 急速進行性糸球体腎炎 | 5 | 1 |
| 腎尿細管間質性腎疾患 | 3 | 3 |
| その他 | 15 | 20 |
| 入院件数合計 | 138 | 149 |
| エコーガイド下腎生検件数 | 23 | 19 |
| 血液透析導入件数 | 53 | 53 |

(スタッフ)

部長 : 縄田 智子
 主任医師 : 竹野 貴志 (2018. 4月から)
 嘱託医 : 鈴木 美穂 (2018. 3月まで)
 後期研修医 : 丸尾 美咲 (2018. 4月から)

腎臓内科は2016年7月に膠原病・リウマチ内科と分離される形で設置され、腎臓内科スタッフとしては2人でしたが、2018年4月より3人体制となりました。また実際の診療や回診・カンファレンスは、膠原病・リウマチ内科と合同で行っています。

研修医も膠原病・リウマチ内科との合同で研修しています。2018年は、1年次研修医として川原早百合医師(1月)、守田未来医師(1月)、竹内正興医師(4-5月)、梅津成貴医師(6-7月)が、2年次研修医として坂田真紀医師(2-3月)、杉町和紀医師(3月)、錦戸慎平医師(2-3月)、仲摩恵美医師(3月)、藤川愛咲子医師(5-6月)、米原敬博医師(10-11月)、濱本真理奈医師(10-11月)、川原早百合医師(12月)が研修を行いました。

(診療実績)

腎臓内科では、内科的腎疾患の入院および外来診療と、透析室業務を担当しております。透析室での診療については別稿(P.68)にて記載します。

外来は、外来棟2階泌尿器科診察室において火曜日と木曜日に腎臓内科の診療を行っております。新患・再来合わせて一日あたり30~40人の受診があり、慢性腎臓病(CKD)、IgA腎症、ネフローゼ症候群などの診療を行っております。CKDに関しては、かかりつけ医の先生方との病診連携を基に、腎疾患としての総合的評価、薬剤調整、管理栄養士による栄養指導を行っております。また、内分泌・代謝内科との連携により糖尿病性腎症の管理、耳鼻咽喉科との連携によりIgA腎症に対する扁桃摘出術+ステロイド療法にも取り組んでおります。

入院は、5階東病棟において腎生検、ネフローゼ症候群に対するステロイド療法、血液透析導入、急性腎障害の治療、CKD評価教育などを行っております。

(今後の方向性)

大分県は人口あたりの透析患者数が全国的にみても多く、腎疾患の早期治療、進行予防が腎臓内科として必須の課題と考えます。そのためには、かかりつけ医の先生方との円滑な連携が不可欠と考えます。より質の高い診療を目指し、また院内各診療科との密な連携を図り、大分県の新規透析導入数減少と腎疾患患者のQOL向上を目指して努力してまいります。
 (文責：縄田智子)